

2 畜種別等概要

【(1)肉用牛】

- ① 飼養頭数(平成31年2月1日現在)
 - ・ 総飼養頭数 338,100頭 (対前年比102.6%)
 - ・ 子取り用雌牛頭数 122,200頭 (対前年比104.4%)
 - ・ 子取り用雌牛頭数の全国シェア19.5% (全国第1位)

【動向】子取り用雌牛頭数は、平成21年の134,700頭をピークに平成27年は113,000頭と6年間で21,700頭減少していたが、平成28年は114,800頭、平成29年は115,800頭、平成30年は117,100頭、平成31年は122,200頭と4年間で約9,000頭増加
- ② 飼養戸数(平成31年2月1日現在)
 - ・ 7,660戸 (対前年比95.8%)

【動向】飼養戸数は年々減少しており、平成20年の14,100戸から10年間で6,440戸減少
- ③ 1戸当たり飼養頭数
 - ・ 肉用牛全体 44.1頭 (対前年比107.0%)
 - ・ 子取り用雌牛 16.9頭 (対前年比107.0%)

【動向】1戸当たりの飼養頭数は年々増加し、規模拡大が進行
- ④ 県内で肉用牛生産が盛んな地域
 - ・ 肝属地区 繁殖雌牛 29,000頭 (県内シェア 23.7%)
 - ・ 肥育牛 25,200頭 (県内シェア 18.2%)
- ⑤ 出荷動向 (R元)
 - ・ 子牛 出荷頭数 86,344頭 (県内保留率 81.1%)
 - ・ 価格(税込) 748,585円 (R元平均) (対前年比98.9%)
 - ・ 成牛 枝肉価格(税込) 2,534円 (R元平均) (対前年比97.2%)
- ⑥ 流通動向 (H30)
 - ・ 牛食肉処理工場数 10か所 (離島除く)、全処理頭数102,801頭
 - ・ 牛肉の輸出可能施設数 7か所、全輸出量1,390 t
- ⑦ 肉用牛経営の収益性
 - ・ 繁殖経営については、平成22年度以降子牛価格は上昇し、依然として高水準で推移しており、収益性は、労働費を十分にまかなう水準で推移。
 - ・ 肥育経営については、牛枝肉価格は、平成24年度以降は上昇に転じ、その後、全国的な畜頭数の減少から高水準で推移しているものの、出荷されている肥育牛は、高騰した素牛であることや、配合飼料価格が高止まりしていること等から、収益性は厳しい状況にあり、今後とも生産性の向上とコスト低減を図っていく必要

出典：①②③農林水産省「畜産統計」、④鹿児島県畜産課調べ、⑤鹿児島県経済連資料、⑥鹿児島県生活衛生課調べ

本県肉用牛の現状について

